

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902439		
法人名	医療法人社団 及川医院		
事業所名	グループホーム おいかわ		
所在地	北海道旭川市豊岡4条10丁目4番1号 (電話) 0166-36-0303		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成21年9月15日	評価確定日	平成21年10月2日

【情報提供票より】(平成21年8月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年 11月 21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 15人, 非常勤 6人, 常勤換算	11.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,600 円	その他の経費(月額)	21,000~27,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,300 円	

(4) 利用者の概要(8月13日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	6 名	要介護4	5 名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 84.1 歳	最低 67 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 沼崎病院・医療法人社団 及川医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が運営するこのグループホームは、閑静な住宅街と交通の利便性に優れた中に開設され、「希望」「愛」「和」「幸福」を理念としてその人らしい生活がホームで実現出来るように職員全員で常に話し合い、日々戸惑いながらもよりよい介護を目指して取り組んでいます。ホームの特徴として看護、介護両面の連携が充実しているため、医療頻度の高い胃ろうや在宅自己注射、ストーマー、透析等の利用者も積極的に受け入れています。毎年8月に開催される「おいかわ夏祭り」では、地域の方々や家族、親戚、知人等多数参加され認知症に対する理解や啓発活動も行われています。今後は民生委員と連携して地域の高齢者活動にも積極的に何か貢献出来ないかを検討しています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、他のグループホームとの交流を増やす取り組みの点でしたが、地区の包括支援センターやグループホームケア研究会を通じての相互交流や勉強会や情報交換などの活動を通じて意見交換を行い、相互の関係作りに努めています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、普段のケアを振り返る機会と捉え、職員間で話し合わせ管理者がまとめて作成しています。また、外部評価の結果については、職員で話し合い具体的な改善に取り組んでいます。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、本年度 評価日現在4回開催されています。議題は市の指導監査状況と改善点について 防火防災避難訓練について 各委員からの意見・要望について 行事の意義について 次回開催の運営推進会議について意見交換
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 毎月、利用料金を家族が持参されるので、その際に日常の様子や健康状態を報告し、家族からの意見、要望、不安な点など話し合われています。また、来所できない家族には「状況報告書」を作成して報告され、金銭管理についても都度報告されています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、町内清掃や廃品回収、秋祭りに積極的に参加することで地域との連携が図られています。また、毎年8月に開催される「おいかわ夏祭り」では地域の方々にチラシを配布するなど呼びかけをして多くの方々の参加を通じて認知症に対する理解や啓発に取り組んでいます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けていくことを支えるサービスとして、「希望」「愛」「和」「幸福」を事業所独自の理念として作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、日々の業務や毎月実施される全体会議を通じて理念を共有し、基本理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内清掃や廃品回収、秋祭りに積極的に参加することで地域との連携が図られている。また、毎年8月に開催される「おいかわ夏祭り」では地域の方々にチラシを配布するなど呼びかけをして多くの方々の参加を通じて認知症に対する理解や啓発に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、普段のケアを振り返る機会と捉え、職員間で話し合わせ管理者がまとめて作成している。外部評価の結果については、職員で話し合い具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、本年度4回開催されている。委員は、家族、町内会役員、民生委員、介護支援専門員、管理者・職員で構成され、行事の取り組みや意義、指導監査状況と改善点について話し合われている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は、旭川市担当者との連携の重要性について充分理解し、申請書類提出の際に疑問点や相談ごとなどで連携をとりながらサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、利用料金を家族が持参されるので、その際に日常の様子や健康状態を報告し、家族からの意見、要望、不安な点など話し合われている。来所できない家族には「状況報告書」を作成して報告されている。また、金銭管理についても都度報告されている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時に家族の意見を聞き、苦情・相談を話しやすい雰囲気作りを心掛けており、その意見は法人全体で話し合い、結果を運営に反映させている。また、意見箱を設置し、入居時には公的な相談機関を書面・口頭にて説明している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの職員が長期間に渡って勤められるように管理者は相談事や悩みを極力聞くように心掛けており、退職や新規採用時には、利用者にはダメージがないよう全体でフォローし配慮するよう心掛けている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>市やケア研究会での研修会や勉強会に参加し外部の研修を受ける機会を作り、法人内でも看護師による勉強会実施でケアと医療面の内部研修が実施されている。また、毎月開催される全体会議で研修報告会や勉強会を実施し、ケアサービスの質の向上の取り組みがなされている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区の包括支援センターやグループホームケア研究会を通じての相互交流や勉強会や情報交換などの活動を通じて意見交換を行い、相互の関係作りに努めている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、利用前に本人・家族に説明している。また、可能であれば施設見学により雰囲気をつかんでもらいながら、徐々に馴染みの関係を築いている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、日常の会話の中で利用者からの希望や意向を把握し、よく利用者の話に耳を傾け、レクリエーションや懐かしい唄を歌ったりしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、利用者がその人らしい暮らしを実現出来るように、本人、家族からの希望や意向を把握して全職員で共有している。また、日常の会話や表情の中からも本人の思いを把握するよう努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、全職員の意見も取り入れてケアの課題を明らかにし、より具体的な内容になるよう介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護支援専門員の適切な監理のもとに、介護計画書に記載している個別の期間を目安に評価を行い、見直しが行われている。また、利用者・家族の要望や利用者の状態変化に応じて期間終了前であっても都度、現状に即した介護計画の見直しが行われている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、外出や外泊時の送迎や通院の支援など柔軟に行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者を良く知る看護師が配置され、母体医療法人との連携で気軽に相談できる医師が確保されている。また、管理者は毎日医師である法人代表に利用者全員の健康状態を報告し、往診など適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、母体医療法人の看護師と連携して利用者・家族とも早い段階的から話し合いをしながら慎重に対応するよう全職員で方針を共有している。また、状態の変化に応じて随時家族・医師との話し合う機会を設けるようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳と誇りを損ねないような言葉かけや対応を心掛け、プライバシーや羞恥心の配慮にも注意して支援している。又、記録の取り扱いについても、十分に注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の希望や体調に合わせて、運動・散歩・レクリエーションなど相談しながら本人のペースを大切にして支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の体調や希望に応じて食事の準備や後片付けなどを行っている。また、弁当持参で森林公園に出かけたり食べたい物を出前で取るなど食事が楽しみなものになるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、週2回を目安に入浴が楽しめるように支援されている。また、1階と2階のお風呂のサイズが違うので交互に利用したり入浴剤を都度変えたりして対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用前の生活歴を踏まえて、日常の中で家事や得意としていた事をホームで継続して実現出来るように心掛けており、花菜里ランドや森林公園へ弁当持参での散策レクや花火大会見物などの外出の機会を作り気分転換のための支援もされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の体調や希望に沿って、日常的に近所への散歩やスーパー・コンビニでの買い物、天気が悪い日などは気分転換のドライブ、公園散策などで戸外にでかけられるように支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員は、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、利用者の安全面に配慮している。また、利用者の状況・行動を把握して安全に暮らせる支援に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者が配置され、緊急連絡網、緊急対応マニュアルを作成しており、緊急時に全ての職員が速やかに対応ができるように年2回火災避難訓練が実施されている。また、看護師による救急救命の訓練が内部研修で実施されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	具体的な食事摂取量、水分摂取量が記録され、栄養バランスやカロリーについては、法人の栄養士のもとで把握している。また、一人ひとりの健康状態に合わせた量や調理の工夫がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広くゆったりとしており、壁には行事や日常の様子の写真や利用者の作品のパズルや季節を題材にした貼り絵などを飾り、居心地良く過ごせる空間になっている。また、敷地内の畑や花壇では、四季おりおりの花や野菜が栽培され季節感が感じられるように工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類は本人が使い慣れた馴染みの物を持ち込むよう働きかけており、家族との写真や本人の趣味の作品などを飾り居心地よく過ごせる居室の環境作りに努めている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。